


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成29年5月25日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第 2 号	質問議員	1 2 番	渡 辺 良 孝	
件 名	1. つぶらの公園の開園に併せ、町の施策も 2. 観光も視野に入れた嵐橋の改修を				
要 旨					
1. つぶらの公園の開園に併せ、町の施策も 今年の3月25日に「県立山北つぶらの公園」がオープンした。この公園整備は、富士山を眺望できる開放的な広い尾根やせせらぎのある谷等、変化に富んだ地形を活かし、地域の魅力が体験できる公園として神奈川県が整備を進めてきた。公園へのアクセスは、国道246号線安戸交差点から車で約10分。JR谷峨駅から徒歩約60分。そして新東名高速道路山北スマートICから約4.5km（平成32年度予定）の位置にある。大野山をバックに南に広がる相模湾と足柄平野、そして箱根連山から富士山を望み、「天空の丘へようこそ」との呼びかけにふさわしい眺望である。 全面積105.9ヘクタールの内、ここで17.9ヘクタールがオープンしたが、全体の17パーセントにすぎない。当町にとっては懸案であった都夫良野周辺開発が、やっとスタートし、今後に期待を寄せているところである。しかし、県財政の厳しさから、今後の工事の計画は残念ながら具体的には打ち出されていない。そこで質問をする。					
1) 町ではかねて、県と関係のもとにつぶらの歳時記の杜整備事業による簡易保険グリーン総合レクセンターの建設・県立都市公園の整備・大野山ふれあい牧場の推進を町の主要政策としてきていた。しかし、各事業の縮小・撤退など厳しい経過を踏んできている。しかし、ここで県立つぶら公園が全面ではないが開園した。このことは大きなチャンスとして捉え、町が率先して振興政策につなげていくべきではないか。隣接する簡保の跡地は町の土地で、手つかずになっている。今後、県との連携により（仮）「県立つぶらの公園整備推進協議会」のような組織を立ち上げ、隣接地を活かすなどの土地利用政策に取り組んでいくべきではない					

か、町長の考えを伺う。

2) 県西土木事務所では、「財政や利用状況を勘案しながら、なるべく早い内に全面オープンにこぎ着けたい」との見解である。今後いかに、来訪客を増やして行くかについては、地元町の対応が大きなウエイトを占めてくる。共和地域は今年の10月に一般公開される国指定無形民俗文化財の「お峯入り」が育まれてきた地域で歴史的にも深い背景がある。都夫良野の地名も諸説あるが、酒匂川を望む景色が吉野に似ていたことから「都夫(そ)れ吉野」と書き、都夫良野(つぶらの)と呼ぶようになったとも伝わっている。

現在、滑り台だけで眺望に頼る公園だけでは、先を不安視する声も相当ある。当面、「都夫良野の歴史」や「足柄の名産である足柄茶」などの説明板や案内板を設置し、天空の丘に歴史文化を折り込んだ公園として、地域振興はもとより、大野山の観光振興につなげるよう、町の関係する各課の連携で策を練り、県へ提案をして行くことはどうか。

3) この公園は、新東名高速道路山北スマートインターチェンジの設置に合わせ、高速道路ネットワークを活かした防災の機能を発揮する公園としての目的もある。広く県外の方々に訪れていただくためには、つぶらの公園と山北スマートインターチェンジをつなぐ、県道川西線で、嵐発電所付近から川西橋の間は県道としても道路幅が狭い。車で安全に来訪できるよう部分的な拡幅の改修をこの機会に県に要望していくべきではないか。

## 2. 観光も視野に入れた嵐橋の改修を

今年の4月29日大野山開きの日に、谷峨駅から大野山へ登る乗降客を調べに行った。そこで谷峨駅から大野山への登山客の多さに驚いた。ほとんどの人が神奈川、東京方面のお客で私自身認識を新たにした。

町の集計では、谷峨駅から大野山への登山者は664人、下山者が331人、合計995人で、この人数の登山客が嵐橋を渡っている。

当日は、時間帯で橋の前で長蛇の列になっていたが、町職員が立ち会い、従来の半数の10人ずつ通し、老朽化した嵐橋の安全体策を取っていたことは良かったが、最近では、神奈川・東京方面の登山者が谷峨駅から登る人が増えている。町では3月議会の現地調査で、嵐橋の改修については消極的であった。しかし、ここで、つぶらの公園の開園、そして大野山への登山者の増加傾向などを鑑み、地元の生活橋としては当然ながら、観光の視点からも早急に改修すべきと思うが、どうか。